

再至似入深谷。人皆荒醉。但唱觀音。
〔土左日記〕六〇年二月五日。かのふなゑひの淡路のしまのおほいこ都近くなりぬといふを悦びて、
舟底より頭をもたげて、かくぞいへる。○下略

〔夫木和歌抄船三十三〕ころ舟

太宰任にて下りたるに、ふなゑひおきて、もたひといふとまりにて。

太宰大貳高遠卿

ころふねにゑふ人ありとき、つるはもたひにとまるけにやあるらん

〔今昔物語二十八〕頼光郎等共紫野見物語第二

今昔、攝津ノ守源頼光ノ朝臣ノ郎等ニテ有ケル平ノ貞道、平ノ季武□□公時ト云フ三人ノ兵有ケリ、皆見目モ鋼々シク、手聞キ、魂太ク思量有テ、恩ナル事无カリケリ、然レバ東ニテモ度々吉キ事共ヲシテ、人ニ被恐タル兵共也ケレバ、攝津ノ守モ、此レ等ヲ止事无キ者ニシテ、後前ニ立テゾ仕ヒケル、而ル間、賀茂ノ祭ノ返サノ日、此ノ三人ノ兵、云合セテ、何カデカ、今日物ハ可見キト謀ケルニ、馬ニ乗リ次ギテ紫野ヘ行カムニ、極ク見苦カルベシ、歩ヨリ顔ヲ塞ギテ可行キニハ非ズ、物ハ極テ見マ欲シ、何カ可爲キト歎ケルニ、一人ガ云ク、去來某大徳ガ車ヲ借テ、其ニ乗テ見ムト、亦一人ガ云ク、不乘知ヌ車ニ乘テ、殿原ニ值ヒ奉テ引落シテ被蹴ヤ由无キ死ニヲヤセムズラムト、
今一人ガ云ク、下簾ヲ垂テ、女車ノ様ニテ見ムハ何ニト、今二人ノ者、此ノ義吉カリナムト云テ、此ク云フ、大徳ノ車既ニ借持來ヌ、下簾ヲ垂テ、此ノ三人ノ兵賤ノ紺ノ水干袴ナドヲ著乍ラ乗テ、履物共ハ皆車ニ取入レテ、三人袖モ不出サズシテ乘ヌレバ、心懾キ女車ニ成ヌ、然テ紫野様ヘ遣セテ行ク程ニ、三人乍ラ未ダ車ニモ不乗ザリケル者共ニテ、物ノ蓋ニ物ヲ入テ振ラム様ニ、三人被振合テ、或ハ立板ニ頭ヲ打チ、或ハ己等ドチ頬ヲ打合セテ、仰様ニ倒レ、併シ様ニ併シ轉テ行クニ、